（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社　プレア企画		
事業所名	グループハウスおよりの郷Ⅱ		
所在地	長崎県島原市鎌田町丁4133番地		
自己評価作成日	平成　28年　12月　9日	評価結果市町村受理日	平成　29年　2月　20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

のどか、のんびり、ゆったり　の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援していくことをモットーとしております。共同生活の為ある程度の制限が有るかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ家族の皆様とのコミュニケーションを大切にして、家族的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成27年に自治会へ加入し、回覧板を回したり、地区の防災訓練へ参加するほか、市民清掃へ職員が参加するなど地域と密に交流している事が窺える。運営推進会議には、広域圏組合介護保険課、民生委員、家族、地域住民代表、駐在所員等の参加があり、入居者の近況や日々の活動、行事報告等、意見交換が行われている。地区の防災訓練には運営推進会議で話し合った内容を報告し、地域と双方で防災意識を高めるよう取り組まれている。入居者のバイタルチェックのデータを管理し、受診の際は記録をコピーして入居者が適切な医療を受けられるように支援している。「のどか・のんびり・ゆったり」の理念を掲示し、確かな知識と技術で、満足と安心・家庭的な雰囲気が提供できるよう日々介護の実践に取り組まれていることが窺えるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		家族への連絡簿が	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	有限会社　プレア企画 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者とスタッフが業務に取り組む心構えを基本として、理念を作り上げた	「のどか・のんびり・ゆったり」の理念を玄関、リビング、事務所に掲示し、確かな知識と技術で、満足と安心を提供し、家庭的な雰囲気が常に提供できるよう日々介護の実践に取り組むよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度から町内会に加入し、町内会活動を通じ地域の方と交流することで、入居者様とのつながるようにしている	平成27年に自治会に加入し、回覧板を回したり、地区の防災訓練に参加したりするほか、市民清掃日に職員が近隣道路の掃除に参加するなど、地域との交流に努められている。近隣の保育所から七夕時に訪問があり入居者の楽しみにつながっていることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れ、介護技術の講習や認知症理解の啓蒙活動、町内会の方からの質問相談へつなげ、こちらからも情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や家族の代表、駐在所の方にも参加して頂き、入居者様の近況や活動内容の報告だけでなく、参加者の方々からの質問や意見を頂き取り入れるものは取り入れ、こちらからも情報を発信している	運営推進会議は広域圏組合介護保険課・民生委員・家族・地域住民代表・駐在所・職員の参加があり、入居者の近況・日々の活動・行事・意見交換などが行われている。地区の防災訓練にホーム職員も参加し、運営推進会議で話し合った内容を報告し、地域と双方で防災意識を高めるよう取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や県等の研修に参加したり、問い合わせをしたりしている	運営推進会議は、広域圏組合介護保険課に参加してもらっており、ホームの実情を知らせたり、情報を得るなどして協力関係を築いている。地区の避難訓練への参加や市民安全課主催の講習会に参加するなど、自然災害時の対応について職員皆でマニュアルの見直しを計画中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在拘束の実績は無いが、こうすれば拘束になる等の意見交換を職員間でしている	日中は玄関の施錠はせず、見守りをしながら支援されている。身体拘束身はしない方針であるが、職員間で、観察・見守りをしながら、夜間のみ転倒防止の為に赤外線センサーを使用し、対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、職員間で意見交換を行い、互いに注意し合っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターや参考資料を基に、職員間で意見交換をし、必要な方には説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、機会があれば説明し、改定の時もできるだけ早くから情報を伝え理解を深めてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見希望があれば相談し出来るだけ添うようにし、苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行っている	家族への連絡簿があり、面会時や電子メールでやり取りの記録をしている。話しやすい雰囲気づくりに努め、運営推進会議の後に、会議録や日々の様子を文書で知らせるようにしている。ホーム便りを通して入居者の様子を伝えることは家族の安心感にもつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年１回、大全体会議、各事業所ではその都度意見交換をし、反映するようしている	ケース会議等を通じて職員間で話し合い、課題解決に向け迅速に取り組むよう努められている。入浴がしやすいようにバスボードの購入につなげたり、職員や入居者本人に負担が掛からないよう、羽上げ＆スイングアクト機能付き車椅子を購入しケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、研修等に参加すると共に、ベテラン職員による教育等も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	既存のネットワークに、研修や行事等を利用し他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時より家族等の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たたみや新聞折り等)を共同作業という意識持って行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行い、インターネットやFAXを利用し、情報のやり取りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかたが来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにしている	友達や家族等が訪問された時は、居室・リビング等で話をしお茶を出すようにされている。帰られる際は、職員が必ず声掛し、次回も来訪しやすいように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じる旨伝え、退所後も交流している方もある		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている	入居者の希望や意向の把握は、表情・視線・語りを聞いて汲み取るよう配慮されている。意思疎通が困難な入居者に対し、居室の照明に紐を結び点滅のサインができるようにし、職員も見逃さないよう対応していることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、連絡帳、申し送りや主治医との連携等を活用して継続的な支援が行えるように努めている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケアプランに反映している	短期目標と日々の記録等、実施状況を確認した上でケース会議の際に職員から話を聞き、管理者が介護計画を立案されている。介護計画を変更した場合は、蛍光ペンで印を付け職員に分かり易いようにしている。介護計画は本人又は家族へ説明し、署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努め見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、モニタリング後ケース会議を開催して問題解決に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネット、運営推進会議や地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に，かかりつけの医療機関やご希望を伺い連携を取り、入所後の連携構築と維持に努めている	本人が希望するかかりつけ医を受診し、専門医も職員が同行し、受診している。協力医からの往診もある。バイタルチェックのデーターを管理し、受診の際は、記録をコピーして、適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と情報を共有して必要な情報、気付き等を担当医師へ伝え十分な治療、処置を行えるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常勤看護師や医師とも情報の共有を行っている。入居の際にご家族と書類にて同意を頂いているほか、書面での契約は行われていないが近隣の医療機関の医師とも協力が頂けるよう話がされている	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について説明し、看取りの指針も作成されている。これまで重度化した際の対応はなされたが、看取りはなされていない。本人や家族の希望があれば、協力医、看護師、職員、家族と連携して看取りを行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命法の講習を積極的に受講し、AEDのリースを検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	島原市市民安全課や消防等の防災機関と連携をとり、地区の避難訓練には毎年参加している。地震、津波等災害に応じた計画に雲仙普賢岳溶岩ドーム崩壊が加わり、市民安全課の力を借り策定中	消防署立ち会いもとで、昼間火災想定の避難訓練や夜間想定の自主避難訓練が行われ、初期消火・通報・避難誘導訓練を実施されている。地区の避難訓練に参加したり、市民安全課主催の講習会に参加するなどし、今後の自然災害時の対応について職員間でマニュアルの見直しを計画されている。	職員が体得でき、次に繋げる取り組みや、訓練後職員の振り返りを記録する書式の整備を期待する。又、備蓄品のリスト化及び携帯品等の管理体制は十分であるとは言えず、再整備をすることが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケアプランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけ、プライバシーへの配慮も行い自尊心も保たれるよう心がけている	管理者は、職員の日頃から言葉かけや対応が適していない場合などは、その都度教えるようにしている。入居者を呼ぶ際はその方を尊重して「～さん」と呼び、同性の方は名前で呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように理念に基づき努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、その人その人の好みに合った身嗜みの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事が出来るように、個人ごとに適した状態をつくり、職員全員が心がけているが介護度が上がり一緒にすることは難しくなってきた	栄養士が献立を立ている。職員が調理する際にアレンジ加えたり、入居者からのリクエストなどを聞き食事を作られている。入居者の状態に応じて、刻み・トロミ・ミキサー食を提供されている。豆むきなど、できることを入居者に手伝ってもらうこともある。食事の際は手洗い場のドアは閉めておく方が衛生面と部屋の環境を良好に保てるものと思われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事をその方が食べられる状態に手を加え提供し、水分もムセや好みに対応し工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。トイレへの誘導等が必要な場合はチェック表をもとに適切なタイミングで気持ち良く排泄されるよう心がけている	排泄チェック表を整備し、本人の排泄パターンを把握して、昼間は基本的にリビングのトイレに誘導し、支援されている。夜間は、オムツにパッドを使用し、時間を見てトイレに誘導したり、交換して支援している。パッドを使用しオムツ使用の軽減に努めていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表による間隔の把握に合わせ食物繊維の多く含まれる、食材を使用したり、医療機関と連携して服薬や運動による便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている	入浴は、週に2～3回必要に応じて随時入浴したり、シャワー浴ができる。入居者の希望で女性職員の介助が良い方には、羞恥心に配慮し、同性介助にて入浴の支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣や症状・状態に合わせた支援を行い、安心感が持てて、生活できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、主治医の指示に従い、服薬後は様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、洗濯物たたみや新聞折り等、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中に、ドライブや散歩を取り組み、出来るだけ外出の機会を確保するようにしている	入居者の重度化に伴い、なかなか散歩などの外出に行けてないが、季節のドライブ（芝桜・桜・初市など）で気分転換をし、毎月の病院受診の際には、入居者の家の近所をドライブするなどして、気分転換が図れるよう支援されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在対象となる方は居られないが財布等の所持をされ自分自身で金銭管理が出来る方は、職員支援の下、管理していただいていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者の方たちが少しでも季節が分かるよう飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている	玄関は段差をなくし、車椅子でも入り易いようにされている。リビングは、季節感のある飾り付けを施し、ボードには日付けや今日の献立を知らせる工夫がある。畳間に備蓄品やテレビが置かれ、入居者は食事の後にテレビを見られるなど思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファーを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。状況に応じ、席替えをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている	居室のドアに手作りの表札を掲示し、入居者が部屋を認識しやすいよう工夫されている。エアコン・クローゼット・トイレ・ベッドがホームの備え付けで準備されている。ボードには家族の写真を貼り、アルバムなどの馴染みのある物や使い慣れた物等を枕もとに置き、入居者それぞれに居心地の良い部屋づくりにつなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている		